

寄 附 講 座 の 概 要

1 部局名

大学院医学研究院

2 寄附講座の名称

次世代型健康長寿ホルモンアカデミー寄附講座

3 寄附の時期及び期間

設置期間：平成30年5月1日 ～ 令和8年3月31日

4 担当教員名及び職名

特任准教授 横山真隆

特任助教 中山哲俊

特任助教 橋本直子

特任助教 樋口誠一郎

特任研究員 高躍

5 寄附講座の教育研究領域の概要（カリキュラムを含む。）

超高齢化社会の到来と地域社会の過疎化により、特に医療・経済分野における種々の社会問題が深刻化している。そこに差し迫っている問題に対して、「国」「地方」「民」が一体となって、健康長寿社会の形成に資する新たな産業活動の創出や、次世代の医学・科学分野の知財の創生が求められている。特に、少子化や出産年齢の高齢化という問題点からも、老若男女が地域コミュニティに根ざして、生き生きと働きながら、キャリアに応じて安心して子供を生き育てることができる地域社会作りをサポートするための新しい科学的基盤づくりや次世代のリーダーの育成が急務となっている。医学・医療の視点から捉えてみれば、地域医療は地域病院、先端医療と研究は大学、地方行政は行政という縦割りの壁がある。しかしながら、「健やかに生活し、老いることができる社会の実現」のためには、これらの組織が従来の枠組みを超えて、健康長寿社会の形成に資する新たな病態や治療の開発について深く理解し、協力する体制を構築することが非常に重要である。それだけにとどまらず、大学の研究機関と地域中核病院と地域行政・コミュニティが一致協力して、地域医療の実情を深く理解しながらグローバルに活躍できる素養を合わせ持った次世代のリーダーシップを担う Physician Scientist を育成することが、生き活きとした地方創生の実現に向けた大きな投資となる。

そのような背景の中、千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学講座では、ホルモン疾患や健康長寿の分子メカニズムを中心に、甲状腺疾患から骨粗鬆症、さらには糖尿病や生活習慣病、加齢関連疾患に及ぶまで、幅広い病気と健康増進を対象に基礎と臨床の両面から、先端的研究活動を推進している。また、講座のスタッフは、内分泌専門医・内分泌指導医・甲状腺専門医・糖尿病専門医および総合内科専門医・内科指導医、神経内科専門医、臨床医検査専門医として、

千葉県内を中心とした地域専門診療への貢献，若手医師の教育，円滑な医療連携体制の構築にも貢献してきた。加えて，これらの施設において，実臨床でのエビデンス構築を目的として，複数の後方視的解析の臨床研究を行うことで，クリニックを含む地域医療におけるエビデンスに基づく医療の実践と普及を行ってきた。さらに，内分泌疾患における難治症例や診断に難渋する症例に対して，ゲノム解析や分子病態解析などを支援し，基礎と臨床の橋渡しとして，地域医療の質の向上を図ることで地域住民の健康と福祉に重要な役割を果たしてきた。このような活動を通じて，地域医療の実情を深く理解しながらグローバルに活躍できる素養を合わせ持った次世代のリーダーを担う Physician Scientist を育成する必要性を実感している。

そこで，本寄附講座では，千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学講座及び，関連研究機関(千葉大学大学院医学研究院細胞分子医学・細胞治療内科学・免疫発生学・長寿医学，京都大学腫瘍生物学講座，九州大学生体防御医学研究所生体多階層システム研究センター・プロテオミクス分野，東京都健康長寿医療センター研究所，東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター，国立がんセンター研究所ウイルス部，理化学研究所統合生命医科学研究センター，国立生育医療センター再生医学研究部，California Institute of Technology の Division of Biology & Biological Engineering，Columbia University の Biological Sciences 等)や関連医療機関(いすみ医療センター，虎ノ門病院等)と連携し，少子超高齢化社会と地域過疎化の時代のニーズに合わせて，内分泌学とアンチエイジングの分野を中心に，生老病死と健康長寿の分子病態の克服につながる革新的研究活動を推進し，新しい科学的分子基盤の創出と先端的情報発信を生み出すことが狙いである。さらに，地域医療の実情を深く理解しながらグローバルに活躍できる素養を合わせ持った次世代のリーダーを担う Physician Scientist の育成と輩出を行うことで，健康長寿社会・少子高齢化社会対策ならびに生き生きとした地方創生の実現に資するための，新たな学術的・教育的基盤構築を目指す。特に，地方創生プランの中で，老若男女が元気で健康に暮らすことができるよう地産地消や食育等を通じた医・食・農が連携した取組み，いわゆる「医食農同源」の需要が高まっている。千葉県の中でも特に自然豊かで食の充実したいすみ市は，「医食農同源」の視点から，医学研究と地方行政の連携によるグローバル+ローカル=「グローバル」な人材育成のモデルとなることが期待できる。基礎研究の立場から健康長寿社会の実現，少子高齢化社会対策，医食農同源に向けたイノベーションを提供できる。